

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
専修学校インターナショナルデザインアカデミー		平成4年3月25日		成底 敏		〒 901-2131 (住所) 沖縄県浦添市牧港1丁目60番地の14 (電話) 098-942-6780		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人KBC学園		平成6年3月14日		大城 圭永		〒 900-0025 (住所) 沖縄県那覇市壺川3-5-3 (電話) 098-835-4240		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
工業	工業専門課程		インテリア・建築デザイン科		平成29(2017)年度	-	令和 4(2022)年度	
学科の目的	建築・インテリア業に関わる職人として、建築・インテリア設計(製図・CAD作業)、3DCG・BIM(3次元コンピュータグラフィックス)、模型作業、プレゼンテーションカ(イラストレーター、フォトショップ、パワーポイント)など、さまざまな分野に関わる技術等について、専門的な知識・能力を身につけ、その知識に基づく実習を通して実務に関する実践的な技術・技能を身につけることを目的とする。							
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)	取得可能な資格・検定: 建築CAD3級、建築CAD2級、色彩士3級、商業施設士補							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,553 単位時間	1,117 単位時間	1,230 単位時間	206 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
15 人	11 人		0 人		0 %	0 %		
就職等の状況	■卒業者数(C)		19 人					
	■就職希望者数(D)		18 人					
	■就職者数(E)		18 人					
	■地元就職者数(F)		16 人					
	■就職率(E/D)		100 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		88 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		94 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	(令和 7 年度卒業者に関する令和 8 年 5 月 1 日時点の情報)							
■主な就職先、業界等								
(令和7年度卒業生)								
株式会社泉設計、株式会社アレックス、株式会社エー・アール・ジー、他								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無			
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL			
当該学科のホームページURL	https://www.ida.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数				2, 553 単位時間			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				93 単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				211 単位時間			
	うち必修授業時数				2, 553 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				93 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				211 単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位時間			
	(B: 単位数による算定)							
	総単位数				0 単位			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				単位				
うち企業等と連携した演習の単位数				単位				
うち必修単位数				単位				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				単位				
うち企業等と連携した必修の演習の単位数				単位				
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				2 人			
	② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				1 人			
	③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				人			
	④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				人			
	⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				人			
	計				3 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				3 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①教育課程編成委員は、建築士やインテリアコーディネーター及び建築関連協会などの専門的知見を有する業界団体等の役職員から選任する
- ②卒業生の主な就業先である、建築設計事務所・インテリアデザイン事務所・インテリアコーディネーターの企業様と連携して教育課程の編成を行う事により、専門かつ実践的な知識・技術を習得した即戦力となる人材を育成する。
- ③専門分野における履修の中心となる建築設計、インテリアコーディネート、建築CAD・CG制作スキル等の教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新情報を反映させる。
- ④上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうかを、教育課程編成委員会による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で教育の質の確保、更なる教育の質向上に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ①学校管理運営規程の(委員会等の設置)第3条に教育課程編成委員会の設置が位置付けられており、教育課程は、教育課程編成委員会に諮り、学科の目標に照らして校長が編成する。
- ②教育課程編成委員は、委員長(教務責任者)・学科責任者が参加することにより、企業等から提示された意見や提言を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、授業方法・内容等)の編成に反映させることができる。
- 学校の専門分野に対して業界関係者や企業の方々の実務に関する知識、技術などから意見交換を行う場として教育課程編成委員会を学校長の下に位置付ける。また6月の第1回目の委員会を前年度のカリキュラム見直しについて精査し、今年度のカリキュラム進行の確認と修正点を探る。その後、10月の第2回目の委員会では前期の振り返りを通し改正点、ならびに次年度に取り組むべき内容に関して審議する。
- ③教育課程編成委員により、企業等から提示された意見は11月から2月にかけて定期的なカリキュラム編成会議において速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、授業方法・内容等)に検討し、反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年4月1日現在			
名 前	所 属	任期	種別
外間 俊	株式会社 アレックス 代表	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日(2年)	③
金城 優	公益社団法人 日本建築家協会 沖縄支部長 有限会社 門	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日(2年)	①
新崎 奈々子	沖縄県インテリアコーディネーター協会 副会長 くらしdesign US	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日(2年)	①
大城 美由紀	インターナショナルデザインアカデミー 教務部	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日(2年)	—
亀島 英正	インターナショナルデザインアカデミー 教務部	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日(2年)	—
比嘉 健矢	インターナショナルデザインアカデミー 教務部	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年7月4日(金)14:00～15:30

第2回 令和7年10月17日(金)14:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

1. BIMの強化は必須(アナログスキルも軽視しない)
2. AIはどんどん活用する方向で指導をするが、倫理観や使い方はちゃんと指導を行う。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

建築業界・インテリア業界における職業人に必要な知識・技能を習得するために、実習・演習の授業内容、手法に関して業界の専門的知見を有する企業等と連携し、実践的なカリキュラムや教材の作成および指導力の向上につなげる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

上記方針を実現するために、教育課程における科目について、建築・インテリア業界における専門的知見を有する企業等から職員を講師として迎える。モデリングの授業では実務に即した企画力を養うため、連携企業の手掛ける実際の図面を用いながらの建築模型の制作をするなど、さまざまな演習を通して問題発見・解決を創造することの面白さを身をもって学ぶことを目標とする。授業評価に関してはデッサン力、設計業務の概略、プレゼンテーションなどの演習を実施し、実務力軸とした評価を担当講師にて行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
設計演習Ⅰ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	建築設計の第一歩である最も身近な建築である「住宅・別荘」「店舗」の設計課題に取り込む。	ARAKACHI DESIGN
図学(ドローイング)	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	鉛筆による立体描写に始まり、平面図・立面図・展開図からパースラインを意識した透視図の簡略図法(M点法)、2消点簡略図法そして着色トレーニングを課題とする	ARAKACHI DESIGN
モデリング	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	平面的表現である図面を読み取り、頭の中で立体物を想像し、立体表現をすることができるようになる。各種材料の利用方法と特性、それらの加工をする用具の使用技術をみにつけることができる。模型の目的別、範囲別の種類(スタディ、外観、インテリア...など)を知ることができる。	N青木CREATE
インテリアコーディネート演習	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	インテリアコーディネーターの役割・仕事の流れを実践を通して学習する。インテリアコーディネートに必要な知識・スキルを実践を通して学習する。	ielie
BIM演習Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	BIM演習Ⅰの復習として、Vectorworksで2次元から3次元作図を行い、図面からモデリングへの視覚化表現を学ぶ。BIM新時代を見据えた演習。	株式会社エーアンドシーワークショップ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教職員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識をもち、指導スキルを身につけなければならない。そのために下記の通り教員研修環境を整える。

①教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を招いた実践的な知識・指導スキル研修。

②県などの公共事業によるセミナーなどの参加。(自己啓発)

③学内に設置される附帯教育講座を利用しての自己啓発。

④学校法人KBC学園教職員研修規程 第4条、第5条に基づき必要な知識技術の研修を実施する。

上記研修を開催期間など考慮して、4月の年度初めまでに年間受講スケジュールを計画的に組み立て、受講している

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	建設DXに向けた社内体制づくり	連携企業等：	株式会社okicom
期間：	令和7年11月5日(水)	対象：	インテリア・建築デザイン科職員
内容	本セミナーでは、金杉建設ならではのICT・BIM/CIM活用法に加え、活用指定工事以外でもICT・BIM／CIMを導入する意義について紹介します。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	「Google Workspace 活用研修」	連携企業等：	STスマイル
期間：	令和7年7月31日(木)	対象：	教務部職員
内容	これまでアナログで行ってきた教育指導形態をデジタルにすることで、学生にとってより学びやすい環境を整える事を目的とする。効率的な情報管理や共同編集を可能にし、学事予定等のカレンダー活用やGeminiやNotrbookLMといったAIを活用した文書作成・データ分析・情報収集能力を養う事を目的に教員スキルの向上を目的とする		

(3)研修等の計画									
①専攻分野における実務に関する研修等									
研修名:	日本建築家協会(JIA)沖縄支部の第30回通常総会に伴う記念講話、「時間・空間・建築」 連携企業等: 日本建築家協会(JIA)沖縄支部								
期間:	令和8年5月22日(金) 対象: インテリア・建築デザイン科職員								
内容	近代建築の保存や利活用、解体(沖縄における那覇市民会館の解体など)が議論される中、建築専門誌の編集長やJIA25年賞の審査員、現在の主任建築資料調査官としての豊富なご経験を交えながら、建築の「時間」や「空間」について講話します。								
②指導力の修得・向上のための研修等									
研修名:	教育DX,AI活用推進のための動画制作及びAL実践研修 連携企業等: 株式会社STスマイル								
期間:	令和8年9月3日(木)～4日(金) 対象: 教務部職員								
内容	全4単元(1. 講義の動画化、2. 小テストのAI生成、3. AL・PBL型授業設計、4. 模擬授業実践と定着)を通じて「未経験でも明日から必ず実践できるアクティブラーニング(AL)」を習得する。								
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係									
(1)学校関係者評価の基本方針									
当校の教育理念は、高度な技能技術を身に付け、人間性豊かな永久戦力となる人財を育成する事である。この教育理念に基づき実践的な教育が実現できているか、また、その教育を実現する為に必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員会を設置して下記に示す評価項目から評価する。評価結果については、学校長を通じて即座に次年度の学校運営に反映させる。									
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応									
<table><tr><th>ガイドラインの評価項目</th><th>学校が設定する評価項目</th></tr><tr><td>(1)教育理念・目標</td><td>①教育理念・育成する人材像等は定められているか ②学生・保証人(保護者)に対して教育理念等を明文化し、周知しているか ③教職員に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか ④各学科の教育目標、育成する人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか ⑤各学科の職業教育の特色は明確になっているか</td></tr><tr><td>(2)学校運営</td><td>①教育方針や教育目的等に沿った運営方針が策定されているか ②運営方針を教職員に周知しているか ③運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか ④運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。有効に機能しているか ⑤組織機能図があるか ⑥運営会議が定期的開催されているか ⑦教員の指導力育成等資質向上のための取組みが行われているか ⑧専攻分野に係る実務に関する研修等を教員の業務経験や能力、担当する授業や業務に応じて計画的に取組みが行われているか ⑨人事に関する制度を整備しているか ⑩給与に関する制度を整備しているか ⑪情報システム化等による業務の効率化を図られているか(情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか)</td></tr><tr><td>(3)教育活動</td><td>①教育目的および育成する人材像に基づいた教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)を明示し、教職員および学生等に周知しているか。 ②教育目標および育成する人材像に基づいたディプロマポリシーを明示し、教職員および学生等に周知しているか ③教育理念、育成する人材像や業界のニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルの設定や必要な学習時間が確保されているか ④講義および実習に関するシラバスは作成されているか ⑤シラバスあるいは講義要項(コマシラバス)などが事前に学生に示され、授業で有効活用されているか ⑥学生によるアンケート等で、適切に授業評価を実施しているか(学習の目的を満たしているか、満足度を含めて定期的に確認しているか) ⑦評価結果を教員にフィードバックするなど、その結果を授業改善に役立てているか ⑧カリキュラム作成の際、複数のメンバーによるカリキュラム作成やカリキュラム作成委員会等の形で、作成したカリキュラムの検証が行われているか ⑨カリキュラム作成メンバーの中に業界関係者などの外部関係者を入れているかまたはその意見を取り入れているか ⑩キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑪関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられ、その内容、評価法などが事前に決められているか ⑫成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑬専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携した科目について、学生の学修成果の評価を行っているか ⑭資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</td></tr></table>		ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1)教育理念・目標	①教育理念・育成する人材像等は定められているか ②学生・保証人(保護者)に対して教育理念等を明文化し、周知しているか ③教職員に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか ④各学科の教育目標、育成する人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか ⑤各学科の職業教育の特色は明確になっているか	(2)学校運営	①教育方針や教育目的等に沿った運営方針が策定されているか ②運営方針を教職員に周知しているか ③運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか ④運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。有効に機能しているか ⑤組織機能図があるか ⑥運営会議が定期的開催されているか ⑦教員の指導力育成等資質向上のための取組みが行われているか ⑧専攻分野に係る実務に関する研修等を教員の業務経験や能力、担当する授業や業務に応じて計画的に取組みが行われているか ⑨人事に関する制度を整備しているか ⑩給与に関する制度を整備しているか ⑪情報システム化等による業務の効率化を図られているか(情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか)	(3)教育活動	①教育目的および育成する人材像に基づいた教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)を明示し、教職員および学生等に周知しているか。 ②教育目標および育成する人材像に基づいたディプロマポリシーを明示し、教職員および学生等に周知しているか ③教育理念、育成する人材像や業界のニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルの設定や必要な学習時間が確保されているか ④講義および実習に関するシラバスは作成されているか ⑤シラバスあるいは講義要項(コマシラバス)などが事前に学生に示され、授業で有効活用されているか ⑥学生によるアンケート等で、適切に授業評価を実施しているか(学習の目的を満たしているか、満足度を含めて定期的に確認しているか) ⑦評価結果を教員にフィードバックするなど、その結果を授業改善に役立てているか ⑧カリキュラム作成の際、複数のメンバーによるカリキュラム作成やカリキュラム作成委員会等の形で、作成したカリキュラムの検証が行われているか ⑨カリキュラム作成メンバーの中に業界関係者などの外部関係者を入れているかまたはその意見を取り入れているか ⑩キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑪関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられ、その内容、評価法などが事前に決められているか ⑫成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑬専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携した科目について、学生の学修成果の評価を行っているか ⑭資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目								
(1)教育理念・目標	①教育理念・育成する人材像等は定められているか ②学生・保証人(保護者)に対して教育理念等を明文化し、周知しているか ③教職員に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか ④各学科の教育目標、育成する人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか ⑤各学科の職業教育の特色は明確になっているか								
(2)学校運営	①教育方針や教育目的等に沿った運営方針が策定されているか ②運営方針を教職員に周知しているか ③運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか ④運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。有効に機能しているか ⑤組織機能図があるか ⑥運営会議が定期的開催されているか ⑦教員の指導力育成等資質向上のための取組みが行われているか ⑧専攻分野に係る実務に関する研修等を教員の業務経験や能力、担当する授業や業務に応じて計画的に取組みが行われているか ⑨人事に関する制度を整備しているか ⑩給与に関する制度を整備しているか ⑪情報システム化等による業務の効率化を図られているか(情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか)								
(3)教育活動	①教育目的および育成する人材像に基づいた教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)を明示し、教職員および学生等に周知しているか。 ②教育目標および育成する人材像に基づいたディプロマポリシーを明示し、教職員および学生等に周知しているか ③教育理念、育成する人材像や業界のニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルの設定や必要な学習時間が確保されているか ④講義および実習に関するシラバスは作成されているか ⑤シラバスあるいは講義要項(コマシラバス)などが事前に学生に示され、授業で有効活用されているか ⑥学生によるアンケート等で、適切に授業評価を実施しているか(学習の目的を満たしているか、満足度を含めて定期的に確認しているか) ⑦評価結果を教員にフィードバックするなど、その結果を授業改善に役立てているか ⑧カリキュラム作成の際、複数のメンバーによるカリキュラム作成やカリキュラム作成委員会等の形で、作成したカリキュラムの検証が行われているか ⑨カリキュラム作成メンバーの中に業界関係者などの外部関係者を入れているかまたはその意見を取り入れているか ⑩キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑪関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられ、その内容、評価法などが事前に決められているか ⑫成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑬専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携した科目について、学生の学修成果の評価を行っているか ⑭資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか								

(4)学修成果・教育成果	①就職率の向上が図られているか(結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか) ②学生の就職に関する目標が、教職員に共有されているか ③学生の就職活動に関する記録がなされているか ④就職実績を公表しているか ⑤資格取得率の向上が図られているか ⑥資格・検定・コンペに関する目標・計画が教職員に共有されているか ⑦資格・検定・コンペ結果に関して検証・報告がされたか ⑧資格・検定・コンペの結果(合格者数・合格率)を公表しているか
(5)学生支援	①進路・就職に関する支援体制は整備されているか(またそれは学生や保証人(保護者)に周知されているか) ②奨学金制度など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ③学生の健康診断を実施しているか、また健康相談窓口の設置やカウンセラーを配置しているか ④学生の生活環境への支援は行われているか(学生のアパート探しなど、住環境への支援体制はあるか) ⑤保証人(保護者)との計画的な相談会・面談を行っているか ⑥卒業生への就職支援体制を整備しているか
(6)教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか(講義室は学生数、時間割にあわせ、無理なく配備されているか) ②教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか ③施設・設備の点検、補修・修繕等は定期的にまたは適宜行っているか ④学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ⑤防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか ⑥防災・防犯設備(非常灯・消火器・警備システム等)が整備・点検されているか ⑦定期的に防災訓練を実施しているか
(8)教育の内部質保証システム	①学生募集活動は、適正且つ公正に行われているか(社会人、留学生等、多様な学生を受入れているか) ②入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、教職員および学生等に周知しているか ③学校説明会等による情報提供を行っているか(育成する人材像、目指す資格・検定・コンペ、学費・教材費等の情報など)
(9)財務	①ハラスメント等に関する規程を整備し適切に運用しているか ②学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか ③個人情報保護規程が文書化されているか ④自己点検・評価の必要性を全教職員に伝える機会を設けたか ⑤自己点検・評価の結果に基づき改善計画を策定したか ⑥学校関係者評価を実施し、改善の取り組みを行っているか ⑦教育活動に関する情報公開が適切になされているか ⑧自己点検評価結果を公開しているか ⑨学校関係者評価結果を公表しているか
(9)法令等の遵守	①年度予算・中期計画が策定されているか ②予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか ③財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	①教育資源(教職員の出張講座等)や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ②学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況
現場(仕事)ではコミュニケーション能力が必要とあるが、そこまで今の学生たちはコミュニケーション能力が下がっているものなのか?という問いに、高校現場も変化している。高校生でも下がっているので、自己理解から他者理解に繋げていくような取り組みで対応としている。保護者の立場からは、教育の在り方のようなコンテンツがあっても良いと感じるが子供とのコミュニケーションを取ることで少しは上がるのではないかと学校として他者との関わりを改善できるイベントなどを検討する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
新垣 安之	沖縄県立具志川商業高校	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日(2年)	高校関係者
長内 聡	沖縄県立浦添工業高校	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日(2年)	高校関係者
伊敷 恭佑	マンゴハウス	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日(2年)	企業委員グラフィックデザイン分野
宮國 裕乃	SUBAKO DESIGN	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日(2年)	企業委員デジタルデザイン分野
上原 里桜	イラストレーター(フリーランス)	令和8年4月1日～ 令和10年3月31日(2年)	マンガ分野

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: https://www.ida.ac.jp/information/public/
公表時期: 令和8年6月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
① 実践的な学習における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会の選択に資する事
② 学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題等学校全体に関する情報を分かり易く示す事。
③ 上記①・②により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼につなげていく事。
④ 情報の公開を通じて学校の教育の質の確保と向上を図る事を目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	① 学校の沿革 ② 特色 ③ 所在地、連絡先
(2) 各学科等の教育	① 収容定員 ② カリキュラム、③ 目指す検定・公募・コンテスト ④ 検定・公募・コンテスト実績 ⑤ 就職状況
(3) 教職員	各学科の担当教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取り組み状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事
(6) 学生の生活支援	在校生の声
(7) 学生納付金・修学支援	① 学生納付金 ② 奨学金等の紹介
(8) 学校の財務	学園の財務状況公開
(9) 学校評価	自己点検・学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10) 及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法
(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: https://www.ida.ac.jp/information/public/
公表時期: 令和8年6月1日

授業科目等の概要

(工業専門課程 インテリア・建築デザイン科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			建築デザイン史	今日の建造物の造形意匠を理解する上で最も基礎となる近代建築に関する意匠の諸相を中心に講述する。	1前	16		○			○		○		
2	○			建築環境工学	人々が快適に過ごすため、建築における、光環境、採光、温熱環境や日射などの原理を学び、快適な室内環境の創造のため知識を知る。	1後	30		○			○		○		
3	○			建築一般構造	各種構造方式の木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨鉄筋コンクリート造などの概要を講述する。	1前	30		○			○	○	○		
4	○			建築材料学	建築物を構成する材料。主にセメント・コンクリートを中心に金属材料・木材などの諸性質について解説する	1後	30		○			○	○	○		
5	○			基礎製図演習	建築製図の基礎的演習として各種建築図面の手描きトレースを実施する。	1前	30			○		○		○		
6	○			建築C A D演習Ⅰ	各種基本設計図面のCAD操作を実習指導する。	1前	45			○	△	○		○		
7	○			建築C A D演習Ⅱ	各種基本設計図面のCAD操作、図面表現を実習指導する。	1後	30			○	△	○		○		
8	○			設計演習Ⅰ	建築設計の第一歩である最も身近な建築である「住宅・別荘」「店舗」の設計課題に取り込む。	1前	127			○	△	○	○	○	○	○
9	○			設計演習Ⅱ	一連の住宅設計、店舗設計の学習を通して、人間の生活行為と街とのつながり(公共性)との関係性を再定義し設計する。	1後	121			○	△	○	○	○		
10	○			図学（ドローイング）	鉛筆による立体描写に始まり、平面図・立面図・展開図からパースラインを意識した透視図の簡略図法（M点法）、2消点簡略図法そして着色トレーニングを課題とする	1前	30			○	△	○			○	○
11	○			色彩学	人は生活をより快適に過ごすために、「色彩」が果たす役割は非常に大きなものがあり、その重要な色彩を自在に使うには知識と技術が必要である。色彩感覚に自信がないひとでも、配色や色の持つ固有のイメージや、補色や同系色といった組み合わせの理論を知ると色を選ぶ決断が容易になる。	1前	36		○			○		○		
12	○			モデリング	平面的表現である図面を読み取り、頭の中で立体物を想像し、立体表現をすることができるようになる。各種材料の利用方法と特性、それらの加工をする用具の使用技術を身につけることができる。模型の目的別、範囲別の種類（スタディ、外観、インテリア... など）を知ることができる。	1前	30				○	○			○	○
13	○			インテリア計画	演習を交えながら、実践的に必要な室内空間演出のスキルを身につけると同時に、チームビルディングを構築する。	1前	23		○			○		○		
14	○			グラフィックデザイン演習Ⅰ	i l l u s t r a t o r、P h o t o s h o pなどのグラフィックアプリケーションの基本操作を習得し、写真加工、レイアウトの基礎を学ぶ。	1後	24			○		○		○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 インテリア・建築デザイン科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
15	○			発想トレーニングⅠ	頭と指で考える課題として毎週住宅模型をデザインし、プレゼンテーションを行う。コンセプト立案、造形、発表の手順を繰り返し経験し、今後の作品制作に活かす。	1前	20			○	○		○			
16	○			3次元CAD	2D-CADソフト、JW-CADの基本的な使用法を理解した後、更に表現力を高めるために3DCADソフト、Vector Worksを用いて3次元モデリング方の基礎を理解し、簡単なインテリア空間3Dモデルを作成できるようになる。また、2年次設計課題に技法を取り入れ3次元設計（BIM）へ繋げる。	1後	20			○	△	○		○		
17	○			家具制作	家具を設計・制作することで人体寸法を理解し、インテリア空間を読み取る考察力を身につける。同時に木材の知識を深め、加工方法や家具の構成を学ぶ。	1後	30			○	△	○			○	
18	○			特別授業	専門知識と技能ぎ技術以外の人間性を育み社会人基礎力の3つの能力を育成する	1通	83		○	△	△	○	○	○		
19	○			デザイン思考/志学/就職実務	デザイン思考を認識する。他分野・同分野の意見を取り入れ物事の考え方や考えるプロセスを考察する。卒業生講話、就職実務を通して、働くとはどういうことか、業種や職種、仕事と責任、コミュニケーション等、前向きに就職活動が進められるよう働くための基礎を身につける。	1通	102		○	△	△	○	○	○		
20	○			建築法規	建築基準法で規制される諸規定・規準を理解し定義、法文の正しい読み方が理解できる	2前	26		○			○		○		
21	○			建築設備	電気設備、給排水・衛生設備、空気調和設備、防災設備、搬送設備等テキスト及び実物の見学も含め学習する。	2後	30		○			○		○		
22	○			構造力学Ⅰ	構造力学の基礎、断面の性質、建築構造物を合理的かつ経済的に設計するための基礎となる力学について講述する。	2前	30		○			○			○	
23	○			建築施工	建築物の構築の流れ、設計監理としての確認事項等を理解する。	2後	30		○			○	○	○		
24	○			西洋・日本建築史	西洋建築様式の形態的特徴や美術・宗教・生活・政治・地理等との関わり、及び日本建築の造り、特徴など、テキスト及び映像を使い講述。	2後	30		○			○			○	
25	○			建築計画Ⅰ	住宅建築設計の居住空間において、人間が安全で快適に過ごすための動線計画から、空間構成、形態、利用者心理、環境配慮といった基礎を学ぶ。	2前	30		△	○		○		○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 インテリア・建築デザイン科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
26	○			設計演習Ⅲ	建築設計の基礎的手法を知り、更に動線計画といった計画的領域から、空間構成、形態、利用者心理、環境配慮といった設計方針に至る一連の作業を考察する。	2前	144			○	△	○	○	○		
27	○			建築C A D演習Ⅲ	CAD室のパソコンを利用し、各種基本設計図面のCAD操作を実習指導する。	2前	48			○	△	○		○		
28	○			設計演習Ⅳ	2年間の学習成果として、自らテーマを設け自然環境、都市的環境、歴史的背景などを読み取り公共性を高めた設計行為を考察する。	2後	106			○	△	○	○	○		
29	○			BIM演習Ⅰ	Vetorworksソフトを使い2次元から3次元の作図する。BIMの特徴である図面からモデリングの視覚化の表現を身につける。	2前	30			○	△	○		○		
30	○			インテリアコーディネーター試験対策	講義で習得した知識を、実践に即した形でアウトプットする答練講義。講義でインプットした後に行うことで、解答力を養成することができます。習得した知識を定着させ、あらゆる問題に対応できる力を身につけます。	2前	78			○		○		○		
31	○			インテリアコーディネータ演習	インテリアコーディネーターとは何の為にいるのか？コーディネーターにとって大切な心構えや知識を学ぶ。空間は人の心理に大きく関係すること、この仕事の価値・重要性も伝えていく。	2通	63				○	○	○		○	○
32	○			グラフィックデザイン演習Ⅱ	illustrator、Photoshopなどを使用して、より魅力的な表現にするための応用スキルを身に付ける。その他ロゴマークなどのグラフィックデザイン表現の幅を広げる。	2前	30				○	○		○		
33	○			リフォーム学	リフォーム建築は、その原因となる要因を行く通りに区分できる。その要因を探求することは、新築の建築設計にも役に立つ知識を会得することになる。授業ではリフォーム建築のビフォーアフターの事例をスライドで確認した後、実例で設計演習を経験してもらう。敷地周辺の地域環境を知ること、地元の風土・文化に興味を持つことの大切さにも接してもらう	2前	30		○			○	○		○	
34	○			特別授業	専門知識と技能・技術以外の人間性を育み社会人基礎力の3つの能力を育成する	2通	126		○	△	△	○	○	○		
35	○			志学Ⅱ／就職実務	卒業生講話、就職実務、志学を通して、働くとはどういうことか、業種や職種、仕事と責任、コミュニケーション等、前向きに就職活動が進められるよう働くための基礎を身につける。	2通	65		○	△	△	○	○	○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 インテリア・建築デザイン科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
36	○			設計演習Ⅴ	3年間の学習成果として、時代の変化を汲み取り、社会の問題発見と解決をデザイン的に提案する。	3前	160			○	△	○	○	○		
37	○			建築構造設計	建築の一般構造と基礎構造力学を学び、構造設計の基本知識・技術を身につけ、その本質を理解する。	3後	30		○			○			○	
38	○			構造力学Ⅱ	建物が自立する仕組みを理解するため、荷重や応力、梁やラーメンなど構造力学の基礎を学ぶ。	3前	30		○			○			○	
39	○			BIM演習Ⅱ	BIM演習Ⅰの復習として、Vectorworksで2次元から3次元作図を行い、図面からモデリングへの視覚化表現を学ぶ。BIM新時代を見据えた演習。	3前	54			○	△	○		○	○	○
40	○			設計演習Ⅵ	3年間の学習成果として、公共性や芸術性を意識した設計を考察し、沖縄県設計競技を参考に実務的な設計計画を学ぶ。	3後	123			○	△	○	○	○		
41	○			2級建築士対策	2級建築士学科の4教科で、総合60点と各科目13点以上の合格基準を満たすための対策授業	3後	100		○			○			○	
42	○			建築計画Ⅱ	独立住宅以外の建築物を対象に、種類や規模、導線、平面・断面、設備計画などの基礎知識を学ぶ。	3前	30		○	△		○	○	○		
43	○			社会学マーケティング	沖縄や国際社会、SDGsなど身近な課題に着目し、デザインの視点で解決策を考え、提案・発信する力を養う。	3後	27				○	○	○	○		
44	○			発想トレーニングⅡ	消費者ニーズを捉えた自由な発想でインテリア雑貨や家具をデザインし、企画書作成から商品企画まで行う力を身につける。	3前	36				○	○		○		
45	○			総合学習	専門知識と技能・技術以外の人間性を育み社会人基礎力の3つの能力を育成する	3通	128		○	△		○	○	○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 インテリア・建築デザイン科)																
分類				授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択	講義						演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
46	○			キャリアデザイン	企業訪問や就職実務を通して、仕事の内容や責任、コミュニケーションを学び、前向きに就職活動を進めるための基礎を身につける。	3前	82		○	△		○	○	○		
合計				46 科目				2,553 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
本校に在学し、下記に定める授業出席率以上履修し、かつ、その該当する所定の授業科目について各学年末における試験ならびに課題を提出後に合格し、卒業資格を得た者は、卒業証書を授与する。 （1）授業課題提出率100%かつ修了制作、卒業制作を提出し、各科目の90%以上の出席をもって卒業とする		1 学年の学期区分	2 期
（試験） 1. 学業成績は、授業科目ごとに行う試験ならびに課題提出によってこれを定める。ただし、授業科目によってはその他の方法で査定することができる。 2. 試験には定期試験、再試験および追試験、課題再提出等がある。再試験はやむを得ない事故等により定期試験を受けなかった者に対して行い、追試験は受験の結果、不合格となった者のため、課題再提出は作品基準を満たさない場合にこれを行う。 3. 再試験および追試験、課題再提出は本校において必要と認めたときに限り、これを行う。 （学業成績） 学業成績の判定はA、B、C、Dの4種をもってこれを表し、Aは80点以上、Bは60点以上、Cは50点以上、Dは49点以下とし、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。		1 学期の授業期間	24 週